

人権教育啓発資料

第28号

発行 長野県教育委員会人権教育課
発行人 山越 和男

長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-235-7452

FAX 026-235-7490

Eメール jinken@pref.nagano.jp

人権つうしん

山形村の

上條いつみさんのお話

私は、子どもの頃、先生になろうと思ったこともありましたが、上級学校へ行く余裕がなく、働きながら看護婦になる勉強をはじめました。

ある時、読書室で、「小島 春―ある女医の手記―」(小川政子著)を読みました。

その中で、父親が強制的に収容されていくのを、子どもが泣きながら海に入り追いかける話が印象に残り、こんなことがあるのかと信じられない気持ちでした。それから、私も何とか力になりたいと思い、岡山県にあるハンセン病療養所長島愛生園(ながしま あいせいえん)に行こうと考えるようになりました。

しかし、希望した地には赴任できず、戦争が始まってしまいました。やがて、村の保健婦となり、結核で苦しむ人達を回りました。

農家に嫁ぎ、年をとり、夢はそのままになりました。

しかし、長い間の思いが通じたのでしよう。愛生園にいらつしやる長野県出身の女性の方と、数年前から文通を始

めることができました。手紙によると、長島愛生園には、戦中から、十五人の長野県出身者がいたので、今が、亡くなられて、今は三人だけになってしまったということでした。

五十年余りを、家族との交流もなく、寂しく暮らしておられるそうです。入所されている方は、優生手術(療養所内での結婚は、男性は断種手術をすることが条件)を強制的に受けさせられたそうです。

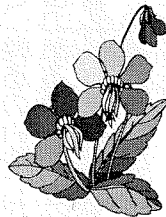
従って子どもは無く、亡くなっても、多くの人は、園内に眠っておられるようです。

今は、園舎も快適になり、野菜を作り、時折はバスハイキングもあって、ありがたい、と感謝しているとのこと。長野県からお見舞い金が贈られ、喜んでおられるようです。

愛生園で一緒になったつれあいの方は、淡路島の生まれです。そのつれあいの方は、淡

ハンセン病療養所

心をつなぐ手紙の交流



路島へバスで行ったのですが、実家へは立ち寄りせず、お姉さんに公園まで来てもらいました。お姉さんは、その方の痛めた手をさすりながら、泣きました。二時間ほど話をして別れたそうです。

私は、気の毒に思い、手紙を見ながら、泣いてしまいました。

路島へバスで行ったのですが、実家へは立ち寄りせず、お姉さんに公園まで来てもらいました。お姉さんは、その方の痛めた手をさすりながら、泣きました。二時間ほど話をして別れたそうです。

善光寺へいらつしやいませんかと申しても、「余りに遠いから」と言われます。

時折、返事の手紙の中に庭の草花を押し花に入れて差し上げますと、「開封するととてもいい香りですれしい」と喜んでくださいます。

療養所の方に喜んで頂くことで、長い間の夢が少しかなった気がします。

ハンセン病問題について

ハンセン病とは、一八七三年にノルウエーのハンセンが発見した「らい菌」の感染によって、皮膚とおもに皮膚や筋肉に張りめぐらされた神経(末梢神経)などがおかされる病気です。

「らい菌」の感染力はごく弱く、うつしても発病することはほとんどありません。それに今では、よく効く薬があつて完全に治る病気となりました。

しかし、昔は「らい」とか「らい病」と言われ、顔や手足などに目立つほどの跡を残すこともあつたので、恐ろしい伝染病のように思われまされた。そして「らい予防法」という法律で強制的に療養所に閉じこめられました。

ほとんどの国では、一九五十年代には、隔離する必要なしとしていましたが、我が国は、隔離政策を改めようとしませんでした。

諸外国に遅れること五十年。人間の生きる権利を踏みにじつてきた「らい予防法」は、

一九九六年にやつと廃止され、八十九年間におよび隔離政策が終わりまされた。そして、二〇〇一年、熊本地方裁判所において、国の政策の誤りを認める判決が出されました。

病気が治り、社会復帰した人達も、以前からいました。社会の偏見を恐れ、隠れるように生活してきたのが実態です。

現在、全国の療養所で生活されている人は三千八百人、長野県出身の方は、四十二人です。平均年齢は、七十九歳。長野県が調査したところ、「死ぬ前に一度墓参りがしたい」と一時帰省を希望されている方がいます。入所して半世紀近くたった人が多く、「この場所で静かに余生を送りたい」という言葉の裏には、退所しても、根強い差別や偏見のために家族に迷惑がかかるのではという懸念があるのです。

私達は、日本の国と社会が犯したこの過ちから、何を学び、どんな行動をしていけばよいかを考えていきたいものです。

最近、ある日本人の知り合いの方から次のようなお話を聞きしました。そして、同感しました。

「お母さんがスペイン語やタガログ語を話すのは恥ずかしいから、友達の前では話さないで」と言っている子どもがいます。

お母さん 話さないで ～文化を格付けする雰囲気～



した。それを言われたお母さんは、本当に寂しそうです。これが英語だったら、そういうことはないでしょうね。

日本の中の、そういう文化を格付けする雰囲気を見事に反映している

思いました。

私も、このことを感じています。

つい先日、フィリピンの母親の方からもこんな話を聞きました。子どもが、「お母さん、人前でタガログ語を話さないで、私恥ずかしいから」と、言うのだそうです。その子どもは日本生まれでいますから、言葉も考え方もすっかり日本人です。彼を非難できるでしょうか？

私の友人は、「文化を格付けする雰囲気」と表現してくれました。正にそうだと思います。

人種や言語や文化に「格付け」があつていいはずがありません。その国の言葉を知つて、その国の文化を知る。知ることによつて、おのづから「格付け」する心が解消すると私は思っています。子どもには、その両親の母語を学ぶ機会が必要ではないでしょうか。

(飯田市竜丘日本語教室新聞掲載 樫野武司さんの文章から)

わたしの思いをきいてください。

A 共同作業所 B 子さん

わたしはA共同作業所で働いています。U養護学校高等部を卒業してから、もう五年になります。箱折りやキャップ作り、ポーチ作りなどの仕事をしています。毎日がとても楽しいです。今は、わたしたちの共同作業所が法人化される平成十六年に向けて、共同作業所コンサートを開いたり、資金集めのための募金活動をしたりして、地域の方ともふれあひながら、仲間といっしょに楽しく作業をしています。

でも、一つだけ悲しいことがあります。私は近所の人や町の人に募金をお願いしたくて、隣の家やその隣の家、同じ自治会のよく知っている家に立ち寄り、募金をいたたいてきたことが何度もあります。その度に、「お父さん、お母さん、弟までもが「はすかしいことはやめろ」と言つたのです。わたしに障害があるから、それを「はすかしい」と言つているのだと思いますが、そう言われることも悲しいです。家の人にそこまで言われると、帰るのいやになってしまいます。

わたしのことや作業所で働く障害のあるの仲間のことを、近所の人や町の人にもっと知ってもらいたいです。障害があつても、みんながんばつていっていることを、いろいろな人に知ってもらいたいです。今日も作業所で今度のコンサートの練習をしました。とても楽しかったです。法人化に向けて、近所の人や町の人にも協力してもらいたいです。

人と人とのつながりは、人権教育の大事な財産です。

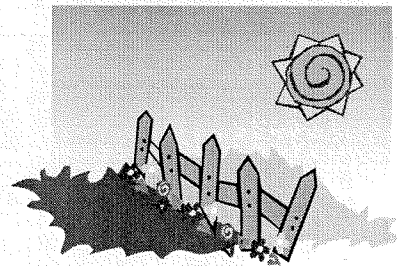
地域人権ネット創造プラン

(平成十五年度開始)

県内では、様々な人権問題に対し民間団体やNPO組織、ボランティア団体などが、人権課題にかかわる当事者と共にそれぞれ独自の活動をしています。「人権ネット」は、これらの団体や県民が相互に連携しあい、ネットワークづくりを行おうというものです。NPO等の活動内容をお知らせいただき、人権教育課のホームページ上で紹介し、情報提供していきたいと考えています。参加・ご協力をお願いします。

(問い合わせ先)長野県教育委員会事務局人権教育課 TEL 026-235-7452 FAX 026-235-7490

E-mail: jinken@pref.nagano.jp 〒380-8570 郵便物は郵便番号を記入すれば、住所不要です。



長野県教育委員会が発行する社会人権教育の手引き「笑顔からはじまる人権」から

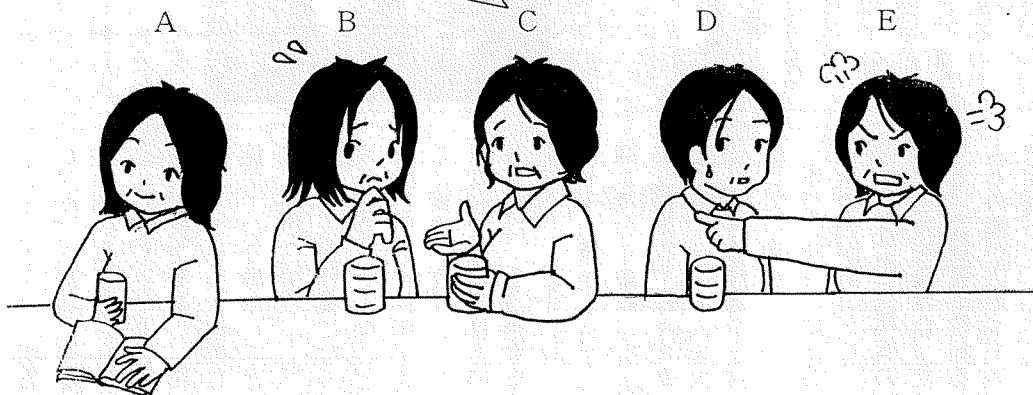
学び 20 あなたは、どの人？ 〈ワークシート〉

<次の事例を読んで考えてみましょう。>

毎月 1 回行われる公民館の女性教室にはいろいろな講座があり、学級生の皆さんの楽しい交流の場です。先日、講座の休憩時間に、5 人の仲間が 1 つのテーブルのまわりでお茶を飲んでいました。しばらくして、C さんが誰にともなく、こんなことを話し始めました。

ああ、悩んじゃうわ。30 歳になる私の息子がやっと結婚したい人ができたらしいのよ。「どんな人かな」と思って、息子に「その女性のことを調べてみた？」と話したら、「今どきそんなことをするなんておかしい」と言われてしまったの。

そんなこと、私もわかっているのよ。でも、調べてみないとどんな人が分からないでしょ。もし、同和地区の人だったら、私はよくても・・・親戚が何て言うか分からないし・・・。息子は、分かってきくと「結婚する」って言い切ると思うの。息子の話を聞いていると、相手はとっても素直ないい人みたいで・・・でも、やっぱり、相手の女性のことを調べてみたほうがいいかなあ。



- Aさん = 関心がなく、Cさんの発言が人権侵害につながるとは気づかない人
- Bさん = Cさんの発言が人権侵害につながることに気づき、どうしようか迷っている人
- Cさん = 人権侵害につながる行為をしようとしている人
- Dさん = Cさんの発言が人権侵害につながると気づきながらも、関わりたくないと思っている人
- Eさん = 人権侵害につながる発言を許さず、注意しようとしている人

分類表 (記入用紙)

〈個人用〉

行動の分類	〔設問1〕 どんな気持ちか？	〔設問2〕 これから、どうしていくことがよいか？
A : 気づかない人 (無関心者)		
B : 迷っている人 (善意の傍観者)		
C : 人権侵害の行為をしようとしている人		
D : 関わりたくない人 (傍観者)		
E : 注意しようとしている人		

【学習の進め方】

- (1) 「このようにCさんが話すとき、自分はどの立場に一番近いと考えてください。」
- (2) 各自ワークシートのどの立場に一番近いと考え、「設問1」に記入し、グループで互いに公開し合う。
- (3) 「設問2」についても、各人記入してから、グループ討論する。

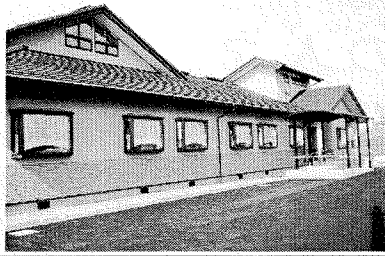
※ なかなか表面化しない意識、気づいても行動に移すことが難しい「心の動き」、その場でできそうなこと、今後学習していきたい内容などについて、具体的に考えていきたいですね。

生きる喜びがそこにある

グループホーム サン・オアシス



平成十五年三月、須坂市に、NPO法人生活支援センターがオープンしました。名前は、「グループホーム サン・オアシス」。



施設に入ると、「人権を大切に」「共に喜び合える」「信頼の介護」という三つの運営理念が書かれた額がすぐ目に入ります。地域の方が毛筆で書いてくださったそうです。

施設の理事長は、バリアフリー住宅関係の仕事をしてきたAさん。バリアフリー研究会で学習し、介護支援仲間にも支えられ、今回、自分の土地を提供し、グループホーム経営を始めました。

施設は、キッチン・居間を建物の中央にした、バリアフリー住宅です。居間は、天井が高く、ステンドグラスの窓からやわらかな光が差し込み、木調を生かした設計が落ち着きを与えています。

痴呆のため、各家庭では制限されがちだったことが、この施設では可能な範囲でできるように考えられています。例えば、キッチンでは、入居者が可能な限り自分で料理ができるよう、電気加熱の設備が整っています。個室が用意され、一人一人

の生活時間が確保されています。普段、家では風呂に入るのを拒んでいただけ、このホームに来たら毎日入れるようになったという方もいるそうです。



入居者の家族からは、「ここに世話になってから、年寄りの口数が増えた。」

「年寄りを残して帰るはつらいものだが、ここでの明るい表情を見て、安心して帰れる。」という評価を得ているそうです。入居された方々一人一人に、喜びの変化が見られるのです。

私がおじやました時は、居間で、Aさんと入居者のみんながくつろいでいました。「お年を召した方々の意志を大切に、暖かく

◎ 十五年度人権教育の方向について

この四月、「長野県人権教育・啓発推進指針」が策定されました。県教育委員会は、この指針に沿う方向で、課名を人権教育課に改称するとともに、十五年度の人権教育を推進してまいります。

十五年度人権教育の方向は、「人権尊重の精神を涵養し、人権問題を自らの課題として解決する意欲と実践力をもった人間を育てることを目指して、生涯学習の視点から学校教育・社会教育が相互に連携した人権教育の推進を図る。特に、一人一人の自尊感情を育て、人権感覚を磨きあうことにより権利と責任の自覚、互いの人権の尊重といった『共に生きる心』を醸成する。また、様々な人権問題に対し理解と認識を深める」となります。

「長野県人権教育・啓発推進指針」につきましては、県のホームページに掲載しておりますのでご利用下さい。

http://www.pref.nagano.jp/syakai/jindo/keihatu/SISIN.PDF

また、人権教育の方向については、人権教育課のホームページもあわせてご覧下さい。

http://www.pref.nagano.jp/kyouiku/jinken/kasyokai.htm

◎ 社会人権教育リーダー研修会を開催します。

十月 二十二日(水) 東・北信 千曲市更埴文化会館

午前 全体会議演会 (講師 岡崎裕さん)

午後 課題別分科会

(ハンセン病問題・障害者の人権・子どもの人権・報道と人権・ワークショップ等)

十月 三十日(木) 中・南信 県総合教育センター

午前 全体会議演会 (講師 池住善恵さん)

午後 課題別分科会

(高齢者の人権・外国人の人権・同和問題・ワークショップ等)